

日本文化政策学会第12回研究大会（九州大学）へどうぞご参加ください。

表記研究大会を2018年11月24日（土）25日（日）に九州大学芸術工学部キャンパス（福岡市南区塩原4-9-1）にて開催いたします。文化政策研究の発展と普及及び、文化政策研究に関心を持つ人びとの交流を図るため、私たち九州大学を中心とする実行委員会は次の3点から第12回研究大会開催を企図しております。

- (1) 近年、九州はあいつぐ大水害や2016年4月の熊本地震といった自然の脅威に襲われながらも、古代より培われてきた豊かな農耕の大地経営や統治を司る組織・官衙が高度に発展してきた歴史的経緯を背に、過酷な天災を叡智と創造と協働を通して人為的に克服しつつ独特のレジリエンス（折れた心を立て直す）デザインや創造的復興への機運を育ててきた。今回の研究大会を、各地に生じたカタストロフィーの惨禍から粘り強く蘇りを図ろうと尽力しているかたがたへ、元気や勇気を共感していただく文化政策の発信源としていきたい。
- (2) もとより畿内や京都、江戸や近代以降の東京から遠く離れた九州は、多様な人材揺籃の地として周縁性や境界性を際立たせてきたにもかかわらず、近年はグローバルゼーションやミニ東京化、地域均質化が蔓延し、皮肉にも都市と地方の文化格差が生じる一方で緩やかな地方崩壊が進み、地域固有性や地方色というアドバンテージが失われている。しかし九州は蓄積された豊潤な文化資源や有形無形の文化遺産をふんだんに味わうことができると同時に、学修成果を社会還元しつつ地域再生や社会再生へ能動的に働きかける現代のグランドツアーにうってつけの地と言える。現実社会への省察や洞察を深め、課題への共感や創造的提案を携えながら、自己治癒力や他者への包容力を有した文化政策への態度を育てていただきたい。
- (3) 九州は古代より歴史的に中国大陸や朝鮮半島からの影響下で培われてきた文化多様性や相互交流の足跡を体現する地であり、現代の東アジア国際情勢においても文化的共感や政治的緊張関係を抜きにできない宿命の隣接地である。そうした観点から、近年の「文化芸術推進基本計画（第1期）」（2018年3月閣議決定）が示す文化芸術の「多様な価値」を理解し活かしていくうえにおいても複眼的かつ相対的な発想と包容力を有しかつ創造的な活動が求められる。大胆に示せば東アジア全体を横断し共感しあえる発想からの文化政策の最前線と未来を論じあいたい。

さらに今回の開催を機にご紹介したいことがあります。会場の九州大学芸術工学部（福岡市南区塩原4-9-1）は、1968年九州芸術工科大学として開学されて以来、今年で半世紀が経ちました。いまや全国に広がる「芸術工学」発祥の聖地として、大学理念に「技術の人間化」を標榜しながら高次のデザイン活動やユニークなデザイナーや実践家を創出してきたことで知られます。今回の研究大会のメインテーマは「社会デザインとしての文化政策」です

が、ここに示すデザインとは、社会全体をつなぎ相互に支え合い分かち合いながら、互助・扶助・共助・公助を生み出す社会哲学でもあり価値創出へ向けた実践技術としても重要な意義と役割を持つものと考えています。

またみなさまに集まりいただくキャンパスは、建築家・東京大学名誉教授香山壽夫氏（1937～）が少壮の頃、米国ペンシルバニア大学ルイス・カーン門下をはじめ欧米武者修行から帰朝後の本学助教授時代に設計されたもので、主なる棟は1972年に竣工、ルイス・カーンの影響を残す現代モダニズム建築の精髓とも言える建築群にご注目ください。

このような場所において開催されます二日間のプログラムの中で特筆しておきたいのは、初日を二つのシンポジウムによるプログラム構成とし、会員のみならず一般市民のかたがたのご参加も歓迎します（初日のプログラムは、九州大学法学部で開催される一般社団法人日本音楽著作権協会（JASRAC）の寄附科目と共催の形で実施します）。

まず第I部の「法とデザイン～創造と表現を支える法制度の力」（仮称）では、水野佑（みずのたすく）弁護士（著書『法とデザイン』美術・映画・音楽・ファッション・建築・メディアアートなどクリエイターの表現活動を法律家の立場からサポート）による基調講演と関連パネラーによるシンポジウムを開催します。

また第II部は、九州大学ソーシャルアートラボ（九州大学大学院准教授中村美亜、同大学院助教長津結一郎ほか）が主体となったシンポジウムを開催、「社会包摂を意識した文化芸術事業・施策の評価～社会デザインの観点から」（仮称）（文化庁&九州大学SAL（ソーシャルアートラボ）との共同研究とタイアップ）を通して「文化芸術推進基本計画（第1期）」（2018年3月閣議決定）において示された文化芸術の「多様な価値」を活かすうえで喫緊の課題とも言える文化政策の最前線と未来を論じあいます。

一方、学会員のみなさまが分科会へ応募いただく研究発表については、口頭による学術研究講演のみならず、ポスター発表の機会を用意します。さらに、このたびはじめてTEDトーク形式を用いることで、短い発表時間だからこそ価値ある考えかたやアイデアをもつばら発信したい場合にご利用いただくことが可能となりました。こうした発表方法の選択は発表希望者に基づくものとしませんが、その採否は、プログラム委員会（委員長 九州大学大学院准教授小島立）にご一任いただきます。また各分科会の座長は応募内容を踏まえて決定いたします。

また初日夕刻開催の公式レセプション（大会懇親会）では、キャンパス正門脇に新築されたデザインコモン（九州大学芸術工学部学生厚生施設）にて地酒や郷土料理をご堪能ください。歌って踊って印象深いアトラクションもご用意したいと趣向を凝らしていきます。

歓談後は、さらに隣接する多次元デザイン実験棟（芸工フィルハーモニー部や演劇部をはじめとする学生利用のメッカ）へお寄りいただき、九州固有の文化政策上の地域課題や多様な文化政策課題をフランクな雰囲気でも論じ合う「屋台大学 in 福岡」へご参加ください。ユニークな公募テーマを軸に開催する予定です。

さらに前日11月23日（金・祝）は学会員対象のエクスカーションに加え、一般市民も参加できる前夜祭的な記念講演会を構想中です。エクスカーションでは、九州や福岡ならではの文化遺産や文化資源を訪れる予定です。講演会では、本学芸術工学部音響設計学科出身の音響設計家豊田泰久氏（ドイツ・ハンブルク・エルプフィルハーモニー、サントリーホール、北九州市立響ホールなどの音響設計担当）をお招きし、映像と講演「世界のトヨタ、劇場・ホールの音響デザインを創る」（仮称）を論じていただく予定です。

蛇足となりますが、ご存知のとおり日程的には秋の連休となり、行楽ハイシーズンやコンサート時の福岡市内の宿泊事情は困難を極めることが予想されます。最終日は大相撲九州場所千秋楽と重なる日程も案じられます。そのため大会参加を予定される学会員のみなさまにおかれましては宿泊予約をお急ぎください。

以上、私たち実行委員会メンバーは、みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

日本文化政策学会第12回研究大会（九州大学）実行委員長
九州大学大学院教授藤原恵洋